

「ふたご手帖」を用いた専門職向け多胎家庭支援研修

双子・三つ子サークルグリーンピース
〒849-0923 佐賀県佐賀市兵庫北三丁目8番36号

助成事業の概要

【目的】

多胎妊娠の情報がない中、多胎家庭が妊娠早期のうちに多胎ならではの情報を得ることで、妊娠、出産、育児への心構えと準備ができ、先の見えない不安が軽減される可能性は高いと思われる。

日本全国の多胎妊娠・出産に関する情報提供の格差解消を目的に、母子健康手帳の多胎家庭向き副読本として作成された「ふたご手帖」を用いた専門職向けの研修会により、多胎家庭の特性と支援について共に考え、より安心して子育てができるようになることを目的とする。

【日時】

2019年6月30日(日) 14:30～16:30

【場所】

佐賀市ほほえみ館

(佐賀市兵庫北三丁目8番36号)

【内容】

「多胎家庭支援に向けたふたご手帖プロジェクトの経緯」

講演：「多胎妊娠の特徴と家族の心情」

講演：「多胎家庭への行政保健師の役割」

多胎児育児体験談：「妊娠・出産・育児のこんなことを知りたかった！！」 など

事業の成果

研修会には、保健師、助産師、子育て支援センター関係者、多胎育児支援者や、ピアサポーター(多胎育児経験者のサポーター)など、54名の

参加があり、熱心に講師の先生方の話に聞き入っていた。

ふたご手帖プロジェクトの講師より、妊娠期を助産師、保健指導に関して保健師、その後に多胎児育児体験談を聞くことで、単胎とは大きく違う多胎育児を理解したうえで、過酷な多胎育児の現状を知ることができ、専門職としての大きな役割を認識できたと思う。

アンケートからの意見より

◆多胎家庭は出産後の育児だけでなく、妊娠中から大変であること。母子ともにハイリスクで虐待リスクも高いことが分かりました。絶対に救える命だから必要な支援をしっかりと届けたい。(妊娠期)

◆病院側の人間として、無事に出産されるまで(管理入院中)精神面フォローを含め、自分なりに関わっているつもりでしたが、全く不十分であったと痛感しました。(妊娠期)

◆相談しやすいように担当保健師を明確にして、適切な時期に支援ができるよう計画を立て、妊娠期からの切れ目のない支援をしていきたいと思いました。(育児期)

◆ピアサポーターとして活動する先輩ママの育成が必要なことが分かりました。(妊娠期・育児期)

◆多胎は家族のサポートだけでは精神的にも肉体的にも負担が大きい。もっと身近な支援がないか、どのような支援を望まれているかなど、困っていることの情報を取り、介入できるよう伝えていくことの必要性を感じました。(育児期)

このように、研修会実施により、単胎とは違う多胎の妊娠・出産・育児の実態を知り、支援への理解が深まり、今後もこのような多胎支援についての研修会を希望する声が多く聞かれた。参加者の多胎支援への関心の高まりを感じる研修会になった。

やすい佐賀県」としての基盤整備が充実することを目指して取り組んでいきたい。

成果の広報・公表

今回の「ふたご手帖」を用いた専門職向け多胎家庭支援研修の内容や成果をブログで掲載した。また、公益財団法人日本社会福祉弘済会「2019年度社会福祉助成事業」～専門職研修会～「多胎家庭支援のポイント」の報告書を作成し、佐賀県、各市町、名義後援をいただいた団体や参加者、ふたご手帖プロジェクトのみなさんの関係する団体などに配布した。

今後の展開

佐賀県の多胎妊婦の母子健康手帳配付時にふたご手帖を配付し、専門職が妊娠早期より必要な情報提供と、多胎に関する相談・指導ができるようになるように、このような研修会をしていくことを関係管轄課に働きかけていきたい。それによって社会的サポートの地域格差がなくなることにつながると思う。

また、専門職が多胎支援について学びを深めることで、多胎家庭へのアプローチが増え、これにより多胎妊婦や多胎家庭の不安軽減が図れ、いつでも専門職に相談できるという安心感が生まれるようになることで、虐待防止効果が高まると思う。

そして、今回の研修を専門職と共に多胎育児経験者のピアサポーターが受講することで、ピアサポーターの資質の向上を図るとともに、多胎支援の場での専門職とピアサポーターの連携事業（多胎児の赤ちゃん訪問など）に発展し、「子育てし